

写真で見る西武ヒストリー(後編)

Ⅲ 事業拡大・刷新期(1950～2003)

ホテル事業拡大

ホテルビジネスの新時代をつくる。リゾートからシティ、そしてまたリゾートへ

1956

西武鉄道、ホテル事業の分離

プリンスホテルの歴史を概観するのは、グループ外の人にとっては実は容易なことではないだろう。西武グループの創始者である堤康次郎が、箱根土地を設立したのは1920(大正9)年である。その後社名を変え、国土計画興業が推進するかたちで箱根、軽井沢といったリゾート地の開発とともに、ホテル事業もスタートした。

「プリンスホテル」の名称は、もともと長野県軽井沢町にあった皇族・朝香宮家の別荘を改装、1947(昭和22)年にホテルとしてオープンした際、「プリンス・ホテル」と命名したことに由来する。そして第二次世界大戦後、GHQに接収されていた旧皇族の土地が1951(昭和26)年にサンフランシスコ講和条約締結によって返還される際に、堤康次郎が買収、その地に建てたホテルにも「プリンス」の名を冠した。

1956(昭和31)年には西武鉄道が運営管理していたホテル事業を独立させ、(株)プリンスホテルを設立。シティホテルについては土地・建物は西武鉄道が所有し、運営をプリンスホテルが担うという具合に事業を分担しながら、ホテルブランドとしての「プリンス」を築いていったのである。

この事業分担は2006(平成18)年にプリンスホテルを存続会社としてコクドを吸収合併し、同時に西武ホールディングスの100%完全子会社となるまで続いた。

シティとリゾート

有力実業家、根津嘉一郎の別荘を改装した晴山ホテル(現・軽井沢プリンスホテル)がオープンしたのは1950(昭和25)年のこと。この客室数80ほどの落ち着いたリゾートホテルの開業からわずか3年後には、都内に、品川プリンスホテルという名称で現・グランドプリンスホテル高輪 貴賓館がオープン。こちら、宮家・竹田宮邸として使われていた土地建物を活かした、落ち着きと趣のあるホテルである。同ホテルには1971(昭和46)年に客室数が400を超える新館(現・グランドプリンスホテル高輪)を建設したが、それまでは都市の真ん中にありながらリゾート気分を味わえるのがプリンスホテルの特徴のひとつであった。それは1955(昭和30)年開業の赤坂プリンスホテル(グランドプリンスホテル赤坂 旧館)にもいえる。

高度成長期を経て東京都心部におけるビジネスユースの高まりを受け、1977(昭和52)年には新宿プリンスホテルがオープン。赤坂プリンスホテルの大規模な新館や、新高輪プリンスホテル(現・グランドプリンスホテル新高輪)、品川プリンスホテル、サンシャインシティプリンスホテルなどがオープンした。

レジャーホテルから、シティホテル、そしてリゾートの別荘感覚のホテルまで、西武グループのホテルビジネスはバラエティに富んだ展開が特色のひとつとなった。



高輪プリンスホテル(現・グランドプリンスホテル高輪 貴賓館)が開業したのは1953(昭和28)年



1950(昭和25)年開業の晴山ホテル(現・軽井沢プリンスホテル)

1955(昭和30)年から2011(平成23)年まで営業した赤坂プリンスホテル

シティ

新宿プリンスホテル

東京都内でも有数の繁華街である歌舞伎町に建つ新宿プリンスホテルは、1977(昭和52)年にオープンした。西武新宿駅に直結するアクセスの良さなど、利便性の高さが人気となっている。



歌舞伎町に建つ
新宿プリンスホ
テル

サンシャインシティプリンスホテル

池袋のランドマークであるサンシャイン60ビルができたのは1978(昭和53)年。それから2年後の1980(昭和55)年、サンシャインシティ内に高層ホテル・サンシャインシティプリンスホテルが開業した。池袋駅からのアクセスの良さで、ビジネスユースにもレジャーユースにも活用されている。



1000以上の客室を持つサンシャインシティプリンスホテル

リゾート

苗場プリンスホテル

1961(昭和36)年の苗場国際スキー場(現・苗場スキー場)オープンの翌年、宿泊施設として苗場スキーハウス新館が誕生。オープンから50年以上、常に日本のウィンタースポーツを牽引してきたホテルといっても過言ではない。



50年以上の歴史を持つ苗場プリンスホテル

ザ・プリンス 箱根芦ノ湖

1978(昭和53)年に箱根プリンスホテルとしてオープンしたホテル。設計を手掛けたのは、文化勲章も受章した建築家・村野藤吾だった。箱根の開発は創業者である堤康次郎の時代から長く続く事業であり、落ち着いた雰囲気は、特別なものがある。



建設中の箱根プリンスホテル(現・ザ・プリンス 箱根芦ノ湖)

日本の「おもてなし」の担い手をつくる

国内唯一の「ホテルがつくったホテルの学校。」それが1971(昭和46)年に開校したプリンスホテルスクールである。当初はホテル業務における管理職養成のため、プリンスホテルの一部機関としてスタートした。

その後、幾度かの変遷を経て、2009(平成21)年に学校法人日本ホテル学院が新設され、専門学校日本ホテルスクールとして現在にいたるまで、多くの人材を育成してきた。ホテル、レストラン、ブライダルの業務を学ぶための専門学校として、業界での知名度と伝統は群を抜いている。

掲げる教育理念は次の5つ。

- (1) 礼と節を重んじる人間の育成
- (2) ホスピタリティ精神の体得と実践
- (3) 理論と実技の一体化によるサービスの創造
- (4) 国際的視野に立脚した人間の育成
- (5) 広く社会に貢献する人間の育成

ホテル、レストラン、ブライダルに限らず、接客業の良しあしは「人」で決まるものだ。そうしたところに早くから着眼し、学校運営というかたちで人材を輩出してきたことは、観光業界の発展に大きく寄与した。